

ソーシャル・キャピタルと国際協力

—持続する成果を目指して—

【 総 論 編 】

2002年 8月

国際協力事業団
国際協力総合研修所

総 研
J R
02-19

本報告書の内容は研究会の見解を取りまとめたものであり、国際協力事業団の公式見解によるものではない。

Social Capitalの訳語には「社会関係資本」、「社会資本」、「社会的資本」、「人間関係資本」、「関係資本」、「ソーシャル・キャピタル」など様々なものがあるが、定訳はなく、本報告書では読みやすさと誤解の少なさを「社会資本」というとインフラを指す場合が多い)に配慮して、一般的によく用いられている「ソーシャル・キャピタル」と表記している。また、Bonding Social Capitalは「内部結束型ソーシャル・キャピタル」、Bridging Social Capitalは「橋渡し型ソーシャル・キャピタル」、Cognitive Social Capitalは「認知的ソーシャル・キャピタル」、Structural Social Capitalは「制度的ソーシャル・キャピタル」という暫定訳に便宜的に統一しているが、これらはできるだけ内容を分かりやすく表記するための仮訳であり、定訳ではない。

なお、国際協力事業団の事業形態(スキーム)について、2002年度から形態名称の変更があったものがあるが、従来の形態名称と混在すると混乱を招く恐れがあることから、この報告書では従来の形態名称を使用している。

序 文

「ソーシャル・キャピタル(Social Capital: SC)」は信頼や規範、ネットワークといった、目に見えませんが成長や開発にとって有用な資源と考えられるもので、これを経済的資本と同様に計測可能かつ蓄積可能な「資本」として位置づけたものです。規範やネットワークなどが開発に重要な役割を果たすことはよく知られていますが、従来、それらは協力をを行う際の外的な条件と考えられ、明確な働きかけの対象とされることはあまりありませんでした。それを外部からの介入によって変化し得る「資本」としてとらえ、協力の中で明示的に位置づけようとするところにソーシャル・キャピタル論の意義があります。

ソーシャル・キャピタルは開発の成果の発現を促すとともに、その成果の持続に必要なものと考えられ、近年、世界銀行等の他の援助機関においてもソーシャル・キャピタルに対する関心が高まっています。しかしながら、ソーシャル・キャピタルの定義や開発への活用については、いまだ議論が定まっていません。国際協力事業団(Japan International Cooperation Agency: JICA)においても社会開発の重要性は認識されていますが、開発の中でソーシャル・キャピタルを明確に位置づけ、その形成方法や評価手法を明らかにするには至っていません。そのため、各開発課題に対し、どのようなソーシャル・キャピタルに着目したらよいかを調査し、その有効性や形成/強化方法、評価手法を検討することを目的として本調査研究を実施し、ここに報告書を取りまとめました。

報告書はソーシャル・キャピタルの概念を整理し、開発との関係や計測手法をまとめた「総論編」と分野別に実際の協力事例をソーシャル・キャピタルの観点から分析した「事例分析編」からなります。

「総論編」ではソーシャル・キャピタルを巡る議論の変遷を踏まえてソーシャル・キャピタルの考え方を整理し、開発援助で注目すべきソーシャル・キャピタルとして、社会・集団内の結束力を高める「内部結束型(Bonding)」と、社会・集団間の関係・ネットワークを構築する「橋渡し型(Bridging)」のソーシャル・キャピタルを挙げました。特に行政とコミュニティの間に「橋渡し型」ソーシャル・キャピタルを形成し、「シナジー(協働)関係」を築くこ

とが持続的な発展には重要であると報告書では提言しています。また、制度や仕組みなどの「制度的(Structural)」ソーシャル・キャピタルと、規範や価値観などの「認知的(Cognitive)」ソーシャル・キャピタルにも着目しました。「内部結束型」も「橋渡し型」も「制度的」なものと「認知的」なものの双方を含み、これらが関連しあって形成・強化されています。さらに、「総論編」ではソーシャル・キャピタルの計測手法に対する考察や計測を行う際の留意点についても調査しています。

「事例分析編」では、ソーシャル・キャピタルの影響が大きく、ソーシャル・キャピタルを意識的に考える必要があると思われる分野から、地域社会開発、農業、森林保全、プライマリ・ヘルスケア、教育、マイクロファイナンスを選定し、事例分析を行いました。事例分析では、まずその分野における開発課題とソーシャル・キャピタルの関係を概念的に整理し、その枠組みに基づいて具体的な事例を分析しています。

ソーシャル・キャピタルについてはまだ検討が始まったばかりであり、今後、活用・形成や評価の方法、ソーシャル・キャピタルが与える影響について経験を積み重ね、教訓を蓄積していく必要があります。そして、これらを基によりよい開発協力を目指していくことが重要と考えます。

本調査研究の実施及び報告書の取りまとめにあたっては、日本貿易振興会アジア経済研究所経済協力研究部の佐藤寛 主任研究員を座長とする研究会を設置して検討を重ねるとともに、公開研究会では多くの方々から貴重なご意見を頂戴致しました。本調査研究にご尽力いただいた関係者に対し心より感謝申し上げます。

本報告書が、開発の持続可能性と社会的要素の関係性を考えていくための参考となれば幸いです。

平成 14 年 8 月
国際協力事業団
国際協力総合研修所
所長 加藤 圭一

目 次

序 文	
目 次	i
事例分析編目次	iii
調査研究の概要	v
委員・タスクフォース一覧	viii
第1章 ソーシャル・キャピタルとは何か	1
1 - 1 なぜ「ソーシャル・キャピタル」か	1 (佐藤寛)
1 - 1 - 1 「キャピタル(= 資本)」と名付ける意義	1
1 - 1 - 2 開発プロジェクトにおける ソーシャル・キャピタルの働き	4
1 - 2 ソーシャル・キャピタルとは何か - 議論の変遷 ... (坂田正三)	7
1 - 2 - 1 初期のソーシャル・キャピタルの議論	7
1 - 2 - 2 ポスト・パトナム期の ソーシャル・キャピタルの議論	9
1 - 2 - 3 JICA 事業へのインプリケーション	18
1 - 3 この調査研究におけるソーシャル・キャピタルの 考え方	20 (佐藤寛、足立佳菜子)
第2章 開発援助とソーシャル・キャピタル	21 (佐藤寛、足立佳菜子)
2 - 1 開発援助において注目すべきソーシャル・キャピタル	21
2 - 1 - 1 「内部結束型(bonding)」ソーシャル・キャピタル	22
2 - 1 - 2 「橋渡し型(bridging)」ソーシャル・キャピタル	24
2 - 1 - 3 「制度的(structural)」ソーシャル・キャピタルと 「認知的(cognitive)」ソーシャル・キャピタル	26
2 - 1 - 4 マクロ(macro) / ミクロ(micro) の ソーシャル・キャピタル	27
2 - 2 JICA において特に着目すべきソーシャル・キャピタル	28
2 - 2 - 1 行政とコミュニティのシナジー構築	28
2 - 2 - 2 横の「橋渡し型」ソーシャル・キャピタルの形成	32

第3章 ソーシャル・キャピタルの計測手法	(加治佐敬、青木祐二)	34
3 - 1 ソーシャル・キャピタルの代表的計測手法とその特徴		35
3 - 1 - 1 ネットワーク		36
3 - 1 - 2 組織・メンバーシップ		38
3 - 1 - 3 規範・価値観		39
3 - 1 - 4 信頼		40
3 - 1 - 5 集団行動(Collective Action)		41
3 - 2 ソーシャル・キャピタル計測の際の留意点		46
3 - 2 - 1 適切なソーシャル・キャピタル指標選択の必要性 ...		46
3 - 2 - 2 現地の社会的・経済的背景に適合した質問内容		47
3 - 2 - 3 ソーシャル・キャピタル以外の要因への配慮		47
3 - 2 - 4 プロジェクト以外の要因への配慮		48
3 - 2 - 5 簡単には計測できない側面		48
付録 データ収集方法例		50
第4章 今後に向けて	(佐藤寛、足立佳菜子)	53
4 - 1 ソーシャル・キャピタル活用の考え方		53
4 - 2 具体的提案		55
4 - 2 - 1 ソーシャル・キャピタルが重要となり得る コア・プロジェクトにおける取り組み		55
4 - 2 - 2 すべてのプロジェクトにおける ソーシャル・キャピタル配慮		60
4 - 2 - 3 JICAの事業方針への反映(中期的課題)		60
4 - 3 留意点		61
4 - 3 - 1 ソーシャル・キャピタルの具体的提示		61
4 - 3 - 2 介入の影響への配慮		62
4 - 4 開発プロセスを自立的に担う力としての ソーシャル・キャピタル		63
参考文献		65

事例分析編 目次

第1章 地域社会開発とソーシャル・キャピタル

1. 地域社会開発における開発課題とソーシャル・キャピタル
.....(滝村卓司)
2. インドネシア・スラウェシ貧困対策支援・村落開発プロジェクト
におけるソーシャル・キャピタルの活用・形成(多田知幸)
3. バングラデシュ住民参加型農村開発行政支援計画プロジェクト
におけるソーシャル・キャピタルの活用・形成(小野道子)

第2章 農業・農村開発とソーシャル・キャピタル

1. 農業・農村開発における開発課題とソーシャル・キャピタル
.....(相葉学)
2. 灌漑水管理とソーシャル・キャピタル(飯田次郎)
3. 農業技術普及とソーシャル・キャピタル(飯田次郎)
4. 生活改善とソーシャル・キャピタル(飯田次郎)

第3章 森林保全とソーシャル・キャピタル

1. 森林分野における開発課題とソーシャル・キャピタル ..(井上真)
2. ネパール村落振興・森林保全計画プロジェクトにおける
ソーシャル・キャピタルの活用・形成(齋藤克郎、睦好絵美子)

第4章 プライマリ・ヘルスケアとソーシャル・キャピタル

-(不破直子)
1. プライマリ・ヘルスケアにおける開発課題と
ソーシャル・キャピタル
2. ザンビア・ルサカ市プライマリ・ヘルスケアプロジェクトにおける
ソーシャル・キャピタルの活用・形成

第5章 教育とソーシャル・キャピタル(結城貴子)

- 1 . 教育分野における開発課題とソーシャル・キャピタル
- 2 . イエメン基礎教育拡充プロジェクトにおける
ソーシャル・キャピタルの活用・形成

**第6章 貧困削減におけるマイクロファイナンスと
ソーシャル・キャピタル**(吉田秀美)

- 1 . 貧困削減ツールとしてのマイクロファイナンス - その課題と
ソーシャル・キャピタル
- 2 . カンボディアのマイクロファイナンス機関 ACLEDA における
ソーシャル・キャピタルの活用・形成
- 3 . カンボディアのコミュニティ統合プログラム(通称「るしな」
プロジェクト)におけるソーシャル・キャピタルの活用・形成
- 4 . スリ・ランカ・マータレーの Women's Saving Banking Society に
おけるソーシャル・キャピタルの活用・形成

調査研究の概要

1. 調査研究の背景と目的

「ソーシャル・キャピタル(Social Capital)」は信頼や規範、ネットワークといった、目に見えないが成長や開発にとって有用な資源と考えられるものを経済的資本と同様に計測可能かつ蓄積可能な「資本」と位置づけたものである。信頼や規範などが開発に重要な役割を果たすということ自体は目新しい議論ではないが、それを「計測可能」かつ「蓄積可能」な「資本」と考え、外部からの介入によって変化し得るものと位置づけたところに意義がある。

近年、世界銀行等の他の援助機関においてもソーシャル・キャピタルは社会開発を進める上での重要な概念として考えられているが、ソーシャル・キャピタルと一口にいても、含まれる要素は多様であり、その定義や開発への活用についてはまだ議論が定まっていない。JICAにおいても社会開発は重要視されているが、開発の中でソーシャル・キャピタルを明確に位置づけ、その形成方法や評価手法を明らかにするには至っていない。

そのため、どのような開発目的に対し、どのようなソーシャル・キャピタルが有効なのかを明らかにし、その形成方法及び評価手法を検討することを目的として2001年9月に研究会を設置し、調査研究を実施した。

2. 報告書構成

報告書はソーシャル・キャピタルの概念を整理し、開発との関係や計測手法について整理した「総論編」と分野別にいくつかの事例をソーシャル・キャピタルの観点から分析した「事例分析編」からなる。

報告書の「総論編」では、「第1章 ソーシャル・キャピタルとは何か」でソーシャル・キャピタルと名付けて考える意義やソーシャル・キャピタルを巡る議論の変遷を踏まえ、この報告書におけるソーシャル・キャピタルの考え方を整理している。

「第2章 開発援助とソーシャル・キャピタル」では、開発援助において注目すべきソーシャル・キャピタルとして、内部結束型(bonding)/橋渡し型(bridging)ソーシャル・キャピタル、制度的(structural)/認知的(cognitive)

ソーシャル・キャピタル、マクロ/ミクロのソーシャル・キャピタルを提示し、これらのソーシャル・キャピタルの開発における役割をまとめている。

「第3章 ソーシャル・キャピタルの計測手法」では、既存のソーシャル・キャピタルを調査したり、ソーシャル・キャピタルの増減を評価したりする際の計測手法や計測を行う際の留意点を整理している。

「第4章 今後に向けて」では、開発協力においてソーシャル・キャピタルの概念を活用していく際の考え方や取り組み方の提案を行い、またソーシャル・キャピタルの概念を取り入れていくにあたっての留意点を述べている。

報告書の「事例分析編」では、ソーシャル・キャピタルの影響が大きく、ソーシャル・キャピタルについて特に意識的に考える必要があると思われる分野から、**地域社会開発、農業・農村開発、森林保全、プライマリ・ヘルスケア、教育、マイクロファイナンス**を選定し、事例分析を行った¹。事例分析では、まずその分野における開発課題とソーシャル・キャピタルの関係を概念的に整理し、その枠組みに基づいて具体的な事例を分析し、今後に向けた提言を各分野ごとに記載した。

3. 実施体制と調査方法

本調査研究の実施体制は「委員・タスクフォース一覧」のとおりであり、ソーシャル・キャピタルの概念に詳しい委員及び地域社会開発、森林保全、農業、プライマリ・ヘルスケア、教育、マイクロファイナンスの各分野、課題を専門とする委員・タスクフォースからなる。報告書の「総論編」では主に文献レビューを基にソーシャル・キャピタルの概念を整理し、JICAにおける活用可能性や今後の課題を検討した。「事例分析編」では文献レビューや関係者への聞き取り調査を基に、ソーシャル・キャピタルの観点から分野別に事例分析を行った。事例は主にJICAの協力案件を取り上げ、それらに加えて他ドナーやNGOの協力事例なども分析した。担当委員・タスクがドラフトを執筆し、研究会での議論を踏まえてドラフトを修正するという作業を行

¹ マイクロファイナンスは分野ではないが、マイクロファイナンスの取り組みはソーシャル・キャピタル形成に有効に働くこと、またマイクロファイナンスの成功にはソーシャル・キャピタルの形成・活用が欠かせないことから、マイクロファイナンスとソーシャル・キャピタルの関係についても分析対象とした。

い、また公開研究会も行って一般からもドラフトに対するコメントを頂き、これらを反映して報告書を取りまとめた。

委員・タスクフォース一覧

座長

佐藤 寛 日本貿易振興会アジア経済研究所経済協力研究部主任研究員

委員

井上 真 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻助教授

加治佐 敬 (財)国際開発高等教育機構 GRIPS/FASID 共同プログラム助教授

坂田 正三 日本貿易振興会アジア経済研究所地域研究第一部研究員

吉田 秀美 (財)国際開発高等教育機構主任

結城 貴子 東京大学先端科学技術研究センター客員助手

齋藤 克郎 JICA 森林・自然環境協力部森林環境協力課課長
(2001年12月まで)

タスクフォース

滝村 卓司 JICA 国内事業部研修業務課職員

多田 知幸 JICA 社会開発協力部社会開発協力第一課課長代理

小野 道子 JICA 社会開発協力部社会開発協力第二課ジュニア専門員

不破直子	JICA 医療協力部医療協力第二課職員
相葉学	JICA 農林水産開発調査部計画課課長代理
飯田次郎	JICA 農業開発協力部畜産園芸課課長代理
睦好絵美子	JICA 森林・自然環境協力部森林環境協力課課長代理(2002年1月から)
足立佳菜子	JICA 国際協力総合研修所調査研究二課職員(事務局兼)
青木祐二	監査法人トーマツ

事務局

小幡俊弘	JICA 国際協力総合研修所調査研究二課課長
佐藤和明	JICA 国際協力総合研修所調査研究二課課長代理
井上恵美子	JICA 国際協力総合研修所調査研究二課国際協力センター嘱託研究員(2002年4月まで)
銅口泰子	JICA 国際協力総合研修所調査研究二課国際協力センター嘱託研究員(2002年4月から)